令和元年度　幼・保・小連携推進事業

第2回　幼・保・小合同研修会

と　き　令和元年６月１９日（水）午後３時～午後４時４０分
ところ　郡山市総合福祉センター５階集会室

「幼保小接続に注目する背景と今後の方向性について」

白梅学園大学大学院　特任教授　**無藤　隆**　先生

講師の無藤先生は、発達心理学・教育心理学・幼児教育小学校教育が専門。平成２９年の幼稚園教育要領・学習指導要領の改訂に際しては、文部科学省中央教育審議会委員・初等中等教育分科会教育課程部会長を務められた。
第２回の合同研修会では、「幼保小接続に注目する背景と今後の方向性について」の演題で教育講演をいただいた。

【幼児教育と小学校以上の教育を貫く柱を確保する】

◇子どもの資質・能力によって、幼児教育と小学校以上の学校教育で育成される子どもの力を共通に表す。
◇「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」という三つの柱を基本とする。

三つの柱
自分
人
物
→
５領域
体
人
物
言葉
表現
→
幼児期の終わりまでに育って欲しい１０の姿

◇それらは知的な力と情緒的な力からなる。相互に循環的に育成されていく。

幼児教育の資質・能力

（１）「知識及び技能の基礎」
・豊かな体験を通して、感じたり、気づいたり、分かったり、できるようになったりする。
（２）「思考力・判断力・表現力等の基礎」
・気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。
（３）「学びに向かう力・人間性等」
・心情、意欲、態度が育つ中で、より良い生活を営もうとする。

《事例～芋ほり》・・・子どもたちの気付き・発見・・・
さつま芋ほりの後で、「大きさを比べるってどうしたらいいのか」という話をしたところ、子どもたちから「これが重いよ」「こっちが長いよ」など意見が出て、重さ計りや長さ測りをすることになった。

郡山市総合教育支援センター

令和元年度　幼・保・小連携推進事業

小学校教育との接続に当たっての留意事項

(1) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。

(2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

小学校におけるスタートカリキュラム　1

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領などに基づく幼児期の教育を通して生まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

小学校におけるスタートカリキュラム　2

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

ルールを守って遊ぶ

やりたいことをやるためには、我慢することも必要という事を知らせる。

小学校のスタート時期

生活科～学校探検・・・いくつかの幼保から入学してくる子どもたちに、幼保での経験を出してもらう。

↓

幼保でやったことがやれるという安心感

↓

安心して学校生活が送れる。

郡山市総合教育支援センター

令和元年度　幼・保・小連携推進事業

幼児教育から小学校教育へ

○　幼児期の年長児を中心に、資質・能力の育ちと、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿などに向けての指導を強化する。

▶　特に、「協同的な学びの活動」や「絵本」「話し合い活動」、身体運動（運動指針を参考に）などに、10 の姿を生かす。
▶　小学校の始まりのスタートカリキュラムでは、
▶　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が発揮しやすい環境・活動を用意する。
▶　適応指導を幼児と相談し意見を聞きながら進める。
▶　教科学習の始まりは 10 の姿の活動の発展から始める。
▶　出身園や個人差が大きいので、その様子を見定め、対応を考える。
▶　低学年の教育を生活科を中心に合科・関連的指導を増やし、体験と言葉を結びつけ、自覚的な学びへと導く

《アンケートから》

- 写真を見ながら実例をあげての話だったので、とても分かりやすく実感を持って学ぶことができて楽しかった。
- 小学校は、幼稚園・保育園での育ち、遊び、学びの姿をしっかり実感としてわかることが大事だと思った。改めて小学校の学びは０からのスタートではないことを心にとめていきたいと思う。
- 学びは小さい時からしっかり繋がっていることに気付き、非常に大切だと思った。
- 小学校に入学した時に、それまでの園生活についての話を聞くことが有効であると感じた。
- 幼稚園、保育所ではどのようなことをやっているのか、どのような姿を目指しているのかを知ることが出来、小学校への接続という面で大変参考になった。
- 乳児～幼児～小学校と成長していく姿がよく分かった。
- ルールを守って“だるまさんが転んだ”、芋ほりの活動の工夫を自分の園でもやってみたい。
- 子どもがどんな事に気付いたり、工夫したり、試したりしているか見守り、それらを活かせる配慮をしていきたい。
- 平成２９年度に告示された教育要領の解説（ガイドブック）もされている無藤先生のお話を伺い、重要ポイントがよく分かった。
- 遊びが学びになるように、子どもたちが主体的に考えられるような環境づくりをすること、見守ることの大切さを感じた。
- 数と文字、さつま芋の実践について納得した。気付くとは、物事の特徴に気付くことであるというすばらしい気付きになった。
- 沢山の資料映像を見せていただきとても参考になった。環境設定の大切さと子どもを理解する先生の能力を高めることが大切だと感じた。
- 少しずつ小学校の授業の取り組み方が変わってきていることが分かりとてもよかった。
- 幼児期の“気付き”に保育士も気づいていけるゆとりがほしいと思った。５領域をもう一度確認しながら子どもたちと関わっていきたい。

郡山市総合教育支援センター